

家事支援サービスについて

平成26年3月14日
経済産業省

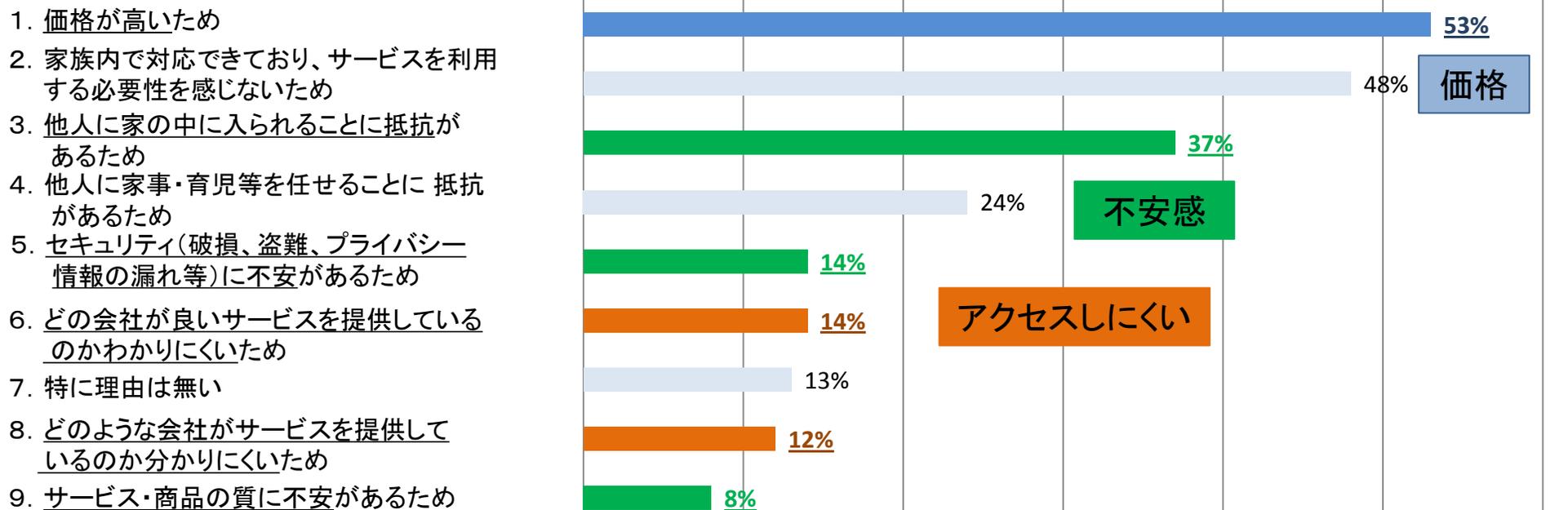
家事支援サービスの現状

■女性活躍の推進には、長時間労働の削減や柔軟な働き方を推進するとともに、**家庭負担の軽減**が必要。

■しかし、家事支援サービスの利用は限定的(利用率2%程度で市場は発展途上)。利用していない主な理由は、「**価格が高い**」(約5割)、「**他人が家に入ることへの心理的抵抗**」(約4割)などサービスに対する不安感。

現在家事支援サービスを利用:2% 知っているが利用したことがない:80% 知らなかった:17%
将来利用意向あり:16%

家事支援サービスを利用していない理由



(出所)NRIが平成23年1月に25歳～44歳までの女性2,000人に対して実施したインターネットアンケート調査「家庭生活サポートサービスの利用に関するアンケート調査」

家事支援サービスの利用促進について

■家事支援サービスの利用促進を図るためには、品質面と価格面で、幅広い層にとって利用しやすいサービスを提供する体制の構築が必要。

①価格面では、利用者負担軽減のための方策を検討。

②品質面では、利用者のニーズや評価を業務に適切に反映させる仕組みや、サービスの担い手(人材)の技能・管理能力に関する資格制度の構築等、一部事業者・団体における先進的な取組を広く業界全体に展開させ、信頼性の高い市場を構築するため、主要事業者等から成る推進協議会を設けることを検討。

【現在の市場規模】

【将来の市場規模】

	2011年度	2012年度
家事代行サービス (生活している住宅内での家事全般に対して日常的な支援を行うサービス)	811億円	980億円 (注) (+20.8%)



約6,000億円※

※ NRIが平成23年1月に25歳～44歳までの女性2,000人に対して実施したインターネットアンケート調査「家庭生活サポートサービスの利用に関するアンケート調査」に基づき、今後の市場規模が、約6倍に拡大するとして推計。

(注)2012年度見込み
(出所)矢野経済研究所「住まいと生活支援サービスに関する調査結果2013」